

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 宗像市障害児通園施設「のぞみ園」

公表日 2025年3月14日

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 |
|---------|----|---|----|-----|---|---|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 7 | 7 | ・少人数のグループは、部屋の隅を活用して療育効果をあげている。 | ・多様な活動が同時に動く際に、活動場所が不足する。 ・スタッフ人員、部屋数ともに厳しい。 ・個別療育向けの狭目の部屋を増やす。 |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 7 | 7 | ・活動のねらいを確認・共有し、打ち合わせやシミュレーションを徹底している。 | ・基準は満たしているが、活動内容や特性によっては十分とは言えない。 ・サポートが必要な子が多く、スタッフが不足している。 |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 8 | 4 | ・老化による危険箇所が随時発生するため、随時仮補修で怪我防止を図っている。 | ・構造化はしているが、刺激も多い。 ・施設設備が古く、環境が適切であるかは疑問。 ・療育用具の老化も進んでおり、更新が必要。 |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 11 | 3 | ・危険なところは、その都度リーダーや他のスタッフと話し合っている。 ・視覚的に集中を妨げない環境設定を心掛けている。 | ・活動する部屋数が少ない。 ・床の擦り切れや、ささくれが気になる。 ・マットなどが、古く、汚れが目立つ。 ・療育室以外の廊下や他のスペースが散らかっている。 |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 9 | 5 | | ・クールダウン等できる場所がない。 ・療育に使用する部屋は、必要最低限しかなく、途中からの他部屋の使用は難しい。 ・スタッフの配置人数から、スタッフの応援も必要となる場合がある。 |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。 | 12 | 2 | ・言語化して話し合う場があり、目標や次にごうしてみようなどと話し合う場がある。 ・行なっていることが、見えやすくなることで、良くなると思う。 | ・ケース会議をする時間がなかなかとれない。 ・目標設定が周知出来ないまま療育を開始することがある。 |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 13 | 0 | ・話す機会、面談を行う必要はあるが、コミュニケーションをとるよう心がけている。 ・行なっていることが、見えやすくなることで、良くなると思う。 | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 12 | 1 | ・職員一人ひとりが大切であり、重要であるから、業務内容に限らずそれぞれの体調についても互いに伝え合っている。 ・意見を言える場が増えている。 | |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 6 | 6 | | |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 13 | 1 | ・研修の場がある。 ・他の児発事業所スタッフのあつまりは、とてもよかった。 ・研修後にはレポート提出により確認している。 | |
| | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 10 | 3 | | |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。 | 12 | 1 | ・個々のこどもと、保護者の方にひたむきに思いやりをもって向き合っている。 | |
| | 13 | 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 13 | 0 | | ・ケース検討が少なく、共通理解しにくい。 |
| | 14 | 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 12 | 1 | ・日々の療育を、次の段階に向けて課題を忘れずに向き合っている。 | |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 11 | 1 | | |

| | | | | | | |
|--------------|--|--|----|---|---|--|
| 適切な支援の提供 | 16 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 12 | 1 | | |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 12 | 1 | ・リーダーが主体で決め、チーム（グループスタッフ）で共有するようにしている。 | |
| | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 13 | 0 | | |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。 | 13 | 1 | | |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 13 | 1 | | |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 14 | 0 | | |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 14 | 0 | | |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 12 | 1 | ・その都度、スタッフが「こうすれば良かった」と思った、感じた時に話をする。聞いてくれる。 | ・モニタが追い付かない。 |
| 関係機関や保護者との連携 | 24 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 13 | 0 | ・話し合いやすい雰囲気作りリーダーがしてくれるため、「こうすれば良かった」と反省する事柄も話し合うことができる。 | |
| | 25 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 13 | 0 | | |
| | 26 | 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 13 | 0 | ・他事業所、保育園などと連絡しあい、支援内容や子どもとの関わり方などに対しての意思疎通が図られていると感じる。 | |
| | 27 | 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 13 | 0 | | |
| | 28 | (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。 | 13 | 0 | | |
| | 29 | 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。 | 9 | 4 | | ・質を上げるための研修の機会は少なく、もっと視野を広げながら参加していく必要がある。 |
| | 30 | (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。 | 12 | 1 | | ・自立支援協議会、部会の動きが見えにくいと感じる。 |
| | 31 | (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。 | | | | |
| | 32 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。 | 3 | 9 | ・事業所と保育所・幼稚園のスタッフが、互いに顔が見える関係になれるよう研修や交流の機会づくり取り組み始めた。 ・隣接する学校適応指導教室の子たちとの交流なども。 | ・午前・午後ともに療育があり、現状では難しい。 |
| | 33 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 14 | 0 | | ・話す機会は少ない。（個人的に?） |
| 34 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 13 | 0 | ・市民活動団体「パパママ応援ネットワークいろいろ」に、スタッフも会員として参画し、保護者への支援とともに自主研修の機会にもなっている。 | | |

| | | | | | | |
|----------|----|--|----|---|---|---|
| 保護者への説明等 | 35 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 13 | 0 | | |
| | 36 | 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 13 | 0 | | |
| | 37 | 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。 | 12 | 0 | | |
| | 38 | 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 12 | 0 | ・日頃から、コミュニケーションに心がけ、「緊張」や「不安」がないよう安心して楽しく通ってもらえるように努めている。 | |
| | 39 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | 12 | 2 | | |
| | 40 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 13 | 0 | | |
| | 41 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。 | 13 | 0 | | |
| | 42 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 13 | 0 | | ・どこまで徹底すれば十分なのか疑問。 ・施設にできる収納を増やす必要がある。 |
| | 43 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 14 | 0 | | |
| | 44 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 5 | 8 | | |
| 非常時等の対応 | 45 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 14 | 0 | | |
| | 46 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 13 | 0 | | |
| | 47 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。 | 13 | 0 | | |
| | 48 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 12 | 2 | ・給食提供を行っていないので、医師の指示書等は使用していない。 ・アレルギーの確認は行っている。 | |
| | 49 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 13 | 1 | | |
| | 50 | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 11 | 1 | | |
| | 51 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 14 | 0 | | |
| | 52 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 14 | 0 | | |
| | 53 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。 | 13 | 0 | | |